

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人三重大学

1 全体評価

三重大学は、建学以来の伝統と実績に基づき、基本的な目標として掲げる「三重の力を世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。～人と自然の調和・共生の中で～」の達成を一層確固たるものにするため、その実践に努めることとしている。第1期及び第2期中期目標期間中の産学官連携事業における「地域のイノベーションを推進できる人財の育成」の成果を踏まえ、第3期中期目標期間においては、社会に積極的に貢献できる人材を育成するとともに、人文社会系（人文・教育）、自然科学系（医学・工学・生物）それぞれを核とした分野におけるイノベーションを推進し、地域の活性化・創生を目指すこと等を目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、教職員だけでなく学生に対しても男女共同参画に対する意識を向上させるため、教養教育科目として現代社会理解特殊講義「男女共同参画基礎」をオンラインで開講するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 教育学部の全学年を対象とし「学びのあしあとの会」を新型コロナウイルス感染症に配慮しオンライン形式で開催しており、参加者にこれまでの学修内容を振り返る機会を設けることで学部専門教育の学修を充実させている他、学生の教員志望意識を高め、自らの目指す教員像を明確にするため、現職教員を招き、「教職の魅力・やりがい・楽しさ」をテーマとした講話を実施している。（ユニット「三重県内就職率の向上」に関する取組）
- 大学で実施しているスマートキャンパス事業「三重大学省エネ積立金制度」による省エネルギー改修、MIEUポイントによる啓発活動により、令和2年度においてはエネルギー使用量13.59%削減（中期計画：6%削減）となり、令和元年度の8.5%削減をさらに上回り、中期計画の達成を維持している。（ユニット「エネルギー使用量の削減」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化				○※		
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

※一定の注目事項による評定（プラス1）と課題事項による評定（マイナス2）を勘案

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載14事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の注目すべき点があるが、附属病院における不正事案があったこと等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ ソフトウェアロボット（RPA：Robotic Process Automation）による業務効率化

平成30年度より活用しているRPAの適用範囲の拡大及び安定運用を行うため、令和2年度から組織再編し「RPA推進室」を新たに設置し、学内のRPA等の活用支援を実施するとともに、他機関との連携（鳥羽商船高等専門学校への操作等説明会実施等）を強化し、学内におけるRPA適用拡大及び安定運用を実施している。RPA適用業務及び削減実績として、会計システムにおける伝票処理業務や入金情報の入力業務等複数業務に適用し、令和2年度においては対前年度比5倍以上となる年間約1,350時間の業務を削減している。

○ 男女共同参画に関する取組

教職員だけでなく学生に対しても男女共同参画に対する意識を向上させるため、教養教育科目として現代社会理解特殊講義「男女共同参画基礎」をオンラインで開講している。厚生労働省から、次世代育成支援対策推進法に基づく「基準適合一般事業主（子育てサポート企業）」の認定を受け、次世代認定マーク（愛称「くるみん」）を取得するなどの取組により、令和2年度における女性教員比率は19.4%（中期計画：18%）の達成を

維持するとともに、事務系職員の指導的地位に占める女性比率は20.0%となり、中期計画を達成している。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

○ 附属病院における不正事案

附属病院臨床麻酔部元准教授が公電磁的記録不正作出・同供用罪、詐欺罪、元教授が第三者供賄罪、詐欺罪、元講師が第三者供賄罪の容疑で逮捕、起訴される事案が発生していることから、附属病院のガバナンス・管理体制、コンプライアンスの徹底に問題があったと認められ、コンプライアンス教育の実施等、再発防止に向けた組織的な取組を引き続き実施することが強く求められる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 寄附講座の受入れ等による外部資金比率（寄附金）の上昇

令和3年度より新設する医学部の寄附講座1講座、医学部附属病院の寄附研究部門1部門（それぞれ設置期間3年）について、令和2年度中に寄附者より設置経費の一括入金、また、設置期間を更新した医学系研究科の寄附講座1講座について、令和2年度中に寄附者より設置経費の一部入金により、外部資金比率（寄附金）が上昇している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ データサイエンス教育の推進

三重大学のSociety5.0の実現に向けICT教育や数理・データサイエンス教育の発展に寄与し、また地域の関係機関や企業との教育研究拠点となり地域創生に貢献することを目的として、令和2年4月より「数理・データサイエンス館」(CeMDS)を開館している。三重大学の地域イノベーション学研究所・株式会社EBILAB・三重県立博物館が連携し、データサイエンティスト育成プログラム2020として、学生が自分達で課題を決め、データ分析を行い、解決策を提案する「PBL型データサイエンス教育」を行っている。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ バイオバンクセンターの設置

ヒト由来の遺伝子・細胞及び組織等を対象とした生命科学研究又は診療を円滑に行い、質の高い試料を研究者又は診療従事者に供給するとともに、個人情報保護・管理を行うことを目的として、バイオバンクセンターを医学部から附属病院管理下に移行して設置し、センターには病院助教及び臨床検査技師を配置し、試料の収集、個人情報保護、研究者又は診療従事者への試料供与、臨床情報の付与等の業務を行っている。

(診療面)

○ 新型コロナウイルス感染症に対する診療

三重県より任命された「新型コロナウイルス感染症医療コーディネーター」として活動を行っているほか、新型コロナウイルス感染軽症者宿泊療養施設へ医療スタッフの派遣や新型コロナウイルス感染症ワクチン接種の円滑な実施を実現するため多職種によるプロジェクトチーム「VxPT」を立ち上げるなど新型コロナウイルス感染症に対する診療に取り組んでいる。

(運営面)

○ 病院経営の効率化

経営に関する諸課題について検討しているマネジメント会議には学長、監事、事務局長他も月1回参加しており、附属病院経営の現状や問題点の確認・共有を迅速に行い経営の効率化を図っており、加えて、毎週病院執行部による新型コロナウイルス対策本部会議を実施し、直近の感染状況の把握・情報共有をするとともに、診療科懇談会を年2回実施し、各診療科において実施できる経営改善策について検討し、新型コロナウイルス感染症拡大下における適切な病院経営に取り組んでいる。